



市内で活躍している女性と市長とのふれあいトーク



今回は、本市出身で一度市外へ出て戻ってこられたUターン者や、市外から嫁いできた人、村上の魅力に惹かれ移住されたIターン者の中から、地域活動にも取り組んでいる女性にお集まりいただきました。

各分野でご活躍されている参加者の「女性目線」を通じた意見交換の中から、私たちが気付いていない魅力や必要なことを発掘し、市政への反映や地域の魅力を見出すためのヒントを探ってみました。

問い合わせ 企画財政課企画政策室 ☎ 53 - 2111 (内線 3233)

市長 それぞれの分野でご活躍いただいている女性トップランナーの皆さんが、自分の目標に向かって進めていることを頼もしく、うれしく思います。さまざまな課題もあると思っていますが、そのあたりをお聞かせいただきたいと思います。

市町村合併をして十数年経ち、時々政策を講じて取り組んできましたが、人口が減っていく社会の中でどのように村上市を進めていくべきかを考え、令和4年度からの第3次総合計画では「子育て支援」を強く掲げて、笑顔があふれていくような地域社会ができるように取り組んでいこうと思います。

今回は7人の女性の皆さまにお越しいただきましたが、日々、感じていることなど、女性目線でお話をうかがいたいと思います。

富樫 私は兵庫県生まれで、こちらに結婚を機に移住してきて10年。以前は大学の教員をしていましたが、今は㈱サクラ・ラボラトリーの経営者としており、樹木から精油を抽出して「香り」を商品として販売しています。3人の子どもがいますが、途中出産もあり、子育てをしながら仕事に取り組んでいます。今はコロナ禍のせいか、香りや精油の需要が増えています。山林に囲

まれている村上ですが、材料の調達に少し苦労しています。

シマツ 私は新発田市出身で、結婚を機に村上来ました。山や自然が豊富なところが大好きで、日々、癒されています。せっかくなので自然を生かしたイベントをできたらと思っています。令和元年に村上のまちなみと自然を生かしたイベントを中州公園と高橋さんの「よはくや」を会場に開催しました。本業はデザイナーですが、いろいろな分野でできることを楽しみながらやっています。

大倉 私は小国町で小さな自家焙煎コーヒーのお店を営んでいます。少人数制のヨガクラスも開催していますが、今は子育て真っ最中なのでお休み中です。経験を積むために完全菜食のお弁





当の製造や販売、配達もやっています。コーヒーを知っていく上で、プロダクトそのものが世界の社会問題や環境問題に関わることを知り、私も消費者としてそのような大きな課題を考えるきっかけになっています。

能登谷 私は神奈川県茅ヶ崎市出身で、9年前、朝日地域の高根に移住しました。移住や定住のアドバイスって何だろうというくらい神奈川にいたころを忘れてしまい、完全に「高根の人」になっていきます。たまに帰ると人の多さに酔って帰ってくる状態です。今日は、刺激をいただける皆さんの「声」が聞けるのを楽しみに参加させてくださいました。

高橋 私はUターン者で、戻ってきて11年経ちます。戻ってきたころの「自然がいつばいだ」「人が少ない」という感動は薄れつつありますが、「おはくや」という宿泊業をしていますので、お客さまの「良いところですね」という声を聞くたびに初心をちょこちょこ思い出しています。Uターンを考えている友人や知人が「高橋が楽しんでいいるから戻ろうかな」と思ってもらえるような暮らし方をしたいと思っています。

小池 夫の転勤で8年前に戻ってきました。

した。村上onhanaネットの副理事をさせていただき、サポーターのママ達とフリーペーパー「きゅっこん」を作成したり、制服や子ども服のお下がりを交換会である「リユースプロジェクト」をフードバンクと交流しながら行っています。託児やママ向けのイベントも行っています。子育てに関わる全ての人が家族のように繋がり、支え合える地域を目指して活動をしています。

富田 旧荒川町生まれで、私もUターン者です。30歳手前で村上に戻ってきました。今はフリーの管理栄養士として「福茶cafeskitchen」という料理教室を主宰しています。昨年からは「ふくちやcafe」というコミュニティカフェの運営を始めました。また、発達の気になる子どもとその家族のコミュニティとして「ふくちや部」を設立するなど、3本柱で活動しています。

小池 こっちに帰ってきた時は皆さんが「良く帰ってきてくれたね」と感謝してくれて、ご近所の方も温かく迎え入れてくれました。ところで、家の裏にある広大な土地に保育園建設の計画があったのですが、計画が白紙になりました。人の流れも変わり地域もぎやかに期待していただけにとっても残念です。

コーヒースタンド
NIJIYA coffee

おおくら くみこ
大倉 久美子さん
(小国町/42歳)

自家焙煎コーヒー豆の販売を始め、コーヒー業界が抱える環境問題などを知り、SDGsの目標に対してアプローチを開始。少人数制のヨガクラスも行う。



NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター

のどや あき
能登谷 愛貴さん
(高根/35歳)

さまざまなコーディネートやプランニング、リサーチなどを行い、地域を元気にする社会起業家やNPOなどを応援する中間支援活動を展開している。



女性の活躍で
まちに元気を!

(株)サクラ・ラボラトリー

とがし まり
富樫 万理さん
(飯野一丁目/47歳)

市内の農林業者との結びつきを強くし、山北地域のヒノキの枝葉と高根のクロモジ枝から香りを抽出し、エッセンシャルオイルなどを製造・販売している。



市長 ハザードマップの浸水想定区域ということなどで、上方避難や避難計画など、さまざまな対策を講ずる中で議論でしたが、残念ながら建設を計画していた事業者が中止の決定をされました。

小池 子育ての中心になり、ママたちが集えるような場所になればと思いました。そういうところがまちの中心に欲しいですね。

富樫 新保育園ができれば、こちらも考えたのですが、私の子どもは幼稚園に通うことにしました。

市長 北線からのアクセスも良く、芝を張って自由に使えるとか、お祭りの

時の駐車場など、そんなフロアとしての利用も良いかもしれませんね。

高橋 せっかく今回、お時間をいただいたので、SNSで「市長に伝えたいことはありますか」と発信したら、すごく多くの意見をいただきました。お子さんのいる方はみんなうなずくと思いますが、やっぱり「天候に左右されない遊び場が少ない」「冬場でも走り回る場所が欲しい」という意見が一番多かったです。旧神納東小学校の遊び場計画を知っている方もいましたが、分からない方も多く、情報を知りたいという声もありました。

市長 それは市のPR不足ですね。申し訳ありません。屋根があるところといえば、旧神納東小学校の体育館が考えられますね。避難所の指定にもなっているのですが、移動式の遊具にするなど、どんな仕掛けにするか写真真を描いているところです。自由に使える環境をイメージし、バリアフリー化やトイレの修繕、スポットで冷暖房設置なども考えたいと思います。意見をくれた方は車で移動できる人ですか。

高橋 そうですね。けれど、中には子ども同士で集まって遊べる場所をという声もあります。「まいづる公園」もありますが、そもそも子どもが遊ぶため



NPO村上ohanaネット

こいけ のぶこ
小池 展子さん
(塩町/42歳)

村上ohanaネットの副理事。
中学生の制服や子ども服のお下
がり交換会である「リユースプ
ロジェクト」を実施。ママ向け
のイベントや託児も行う。



デザインスタジオ「Mago」

シマツ カナさん
(古渡路/35歳)

独学でカラーコーディネー
ター2級、インテリアコーデ
イナーを取得。プロジェクト
の立案からロゴなどのデザイン、
ホームページの制作も手掛ける。

ふくちゃCafe

とみた えりこ
富田 絵里子さん
(坂町/45歳)

家庭や学校、職場でもない「第
3の居場所」としてコミュニティ
カフェを運営。「ごちピン」とい
うシステムで、利用する子どもに軽
食を提供できる仕組みを確立した。



ゲストハウス「よはくや」

たかはし のりこ
高橋 典子さん
(細工町/36歳)

「親戚の家に泊まりに行く」
をイメージに、平成30年にゲ
ストハウスをオープン。「村上
でいちばんまちを楽しめる宿」
を目指している。



の公園ではないので、安心して遊べる
環境ではないです。

市長 よく公園があれば良いねとい
うご意見がうかがいますが、市内には2
74の行政区があり、公園の数が13
0ほどあります。市で把握していない
行政区で持っているものもありますよ
ね。どのような公園を理想としていま
すか。

シマツ 遊具がある公園が欲しいので
は。例えば「ブランコ」とか「シーソー」か。
一般的な公園でいうとジャングルジム
とか。

富樫 「いこいの森」にはありますよ
ね。

市長 一つの遊具でちよつとした時間
を過ごせるものが良いのではというこ
とで「いこいの森」には大型遊具を入
れさせていただきました。あと、岩船
の「みなとオアシス」にも最近、大型
遊具を設置しています。それらをター
ゲットにしてみんなが集まる場所にな
って欲しいですね。

富田 私は発達の気になる子どもを持
つ家族として、お話しをさせていただ
きます。子育ての苦労は皆さん感じて
いると思いますが、特性を持つ子ども
と家族はそれ以上の苦労と生きづらさ
を感じるような気がします。



地域支援の重要性は実感しますが、例
えば遊具を付けた、たくさん付けたと
言っても、特性を持つ子どもは上手に
遊べないのです。フォローが必要にな
ります。市長には遊具を付ける、それ
だけでは終わってほしくありません。
また、子どもの環境だけでなく、苦労
しながら働く親への理解についても深
めてほしいと思っています。

ふくちゃ部の活動を通し、環境の調
整、周囲の理解力の向上、小さい頃か
らの自尊感情の育成の大切さを痛感し
ています。現在、ふくちゃ部には70組
ほどの部員がいますが、さまざまな苦
しみを抱えており対応しきれない事も
ありますので、連携やつながりが必要
と感じています。



市長 家庭教育支援チームには入っていますか。

富田 入っています。

市長 まさにつながりをイメージして立ち上げたものです。それぞれの成長の段階でしっかりとしたフォローをしていくこと。家庭教育支援チームは、根っこまでしっかりとやらなければならぬ。ない対策もあるし、緩やかに関わっていくところもある。さまざまな場面で想定できることをピンポイントで「こいつが家庭はこいつも必要だね」と、可視化できる仕組みになればと思います。行政の支援で足りないものは言ってくたさい。

富田 ありがとうございます。

市長 ボランティアの部分がとても多いのにそれを二人でやっているという話ではいけない。その辺はしっかりと連携しましょう。

大倉 多様性が重視される現代社会で、みんなで包み込める環境になることは不可能ではない気がします。それが実現できれば転出者を減らし、移住者を増やすことにも繋がるのでは。

市長 人の豊かさ、やさしさなんだと思います。さまざまな場面で少し手を差し伸べる、そのような社会になるよう、私も頑張っていきます。

能登谷 そういう子どもたちが自然の中で大人と触れ合うのも良いよね。

市長 「森の幼稚園」みたいな。

シマツ そんな感じ、良いですね。

能登谷 これだけ自然が豊かなのに、地元の子たちは触れ合う機会が全然ないし、大人たちもない。そのあたりは、富樫さんのアロマがつなぎ役になり得ますよね。

富樫 クロモジの木が足りないの、ある機関に相談したら「高根が良いだろう」と言われ、クロモジを探っていたけどことになりました。私が一番大事にしているところは、地域で採れたもので、地域の人にお金が回る、そのようにしたいのです。10年以上やってようやくそつした形になってきたなと思います。移住者や人口減少の話をする上で、住む環境や社会の雰囲気はもちろんです。やっぱり仕事が無いと生きていけない。そのような意味で、もう少し頑張らなければならないと思います。

市長 希少性がありますね。東京23区より広い本市で85%が山林。それでも材料の調達に間に合わないんですね。

富樫 所有がはっきりしているところに行く必要があるの、高根は管理が行き届いているので話が早かったの

すが、未開拓のところが多いです。

市長 今、飛行機でレーザー測量をしているので、所有者や樹種、樹齢などもはっきりしてきます。関川から延びる基幹林道もできてきていますので、そのあたりで情報の連携はできそうです。ローカルでサプライチェーンができるというところは絶対必要なので、ビジネスモデルとして後押ししていきたいです。

能登谷 福島県のある町では、町長室の前でクロモジオイルをたいているところがありました。町を挙げて林業を頑張ろうとやっているところ。リラックス成分がラベンダーの2倍あるそうなので、仕事の能率も上がりそうです。ね。

シマツ 以前、中州公園でイベントをしたのですが、バーベキュー広場なのに水道が無かったり、駐車場が遠かったり。せつかくあのような良い場所があるのにもったいない。そういう意見とかを届けられるシステムがあれば良いと思うのですが。

市長 市長への手紙とか提言箱とかありますが、皆さん知らないのかもしれない。今はSNSで直接意見をいただくこともあります。窓口を通すとか、さまざまやり方をしてもらって

良いと思います。

高橋 バーベキュー広場の話や、公園も130ほどあるとのことですが、草がぼうぼうだったり、人けがなかったりして、子どもを遊ばせて大丈夫なのかと不安なところが多いです。確かに「ある」けれど、使えるようになっていないものが多いと感じます。せつかくなら見せ方やデザインで「こんなに素敵な場所だったら行ってみたい」と思ってもらえるように、発信や仕組みがあればすごく良いと思います。

市長 本当に必要な公園なのか、真剣に考えていかなければならないし、さまざまなところで話はせつまくもっています。徐々に理解していただければと思っています。

シマツ 空き家の活用でいろんなプロジェクトが起きていますが、今日の会のように、話し合ったり、活動をアピールできる場があったら、そこから協力しあえる流れが起きると思います。自分が得意なことサポートし合えれば、それぞれの活動が広がるし、新しいプロジェクトも生まれそうですよね。

大倉 山形県小国町では、高校生が自分たちで空き家を改装して「秘密基地」を作るプロジェクトをやっています。生徒の成長にも繋がって地域も巻き込む、プ

ロセスが良いなと思いました。

市長 荒川中学校の生徒もいろんな仕掛けをしています。子どもたちは吸収量があり、レスポンスが良いんです。ほかの学校でもさまざまな取り組みをしていますが、自分が発信したいもの、表現したいものがあるということは素晴らしいことですよ。

市長 今日をキックオフとして、2回目、3回目としてやりませんか。話ができなかったこともあるだろうし、私も聞きたいので。このような話から政策の中で一つでも二つでも実現できればと思います。**全員** ぜひ、お願いします。次はNーJ Y Aさんのコーヒーを飲みながらしましょう。



日常生活を送る私たちは、だんだんとその状況に慣れ、自分の足元にある素晴らしさを見過ぎてしまいがちです。でも、みんなで集まれば何かできそう。そのように気づくことができた良い機会になりました。